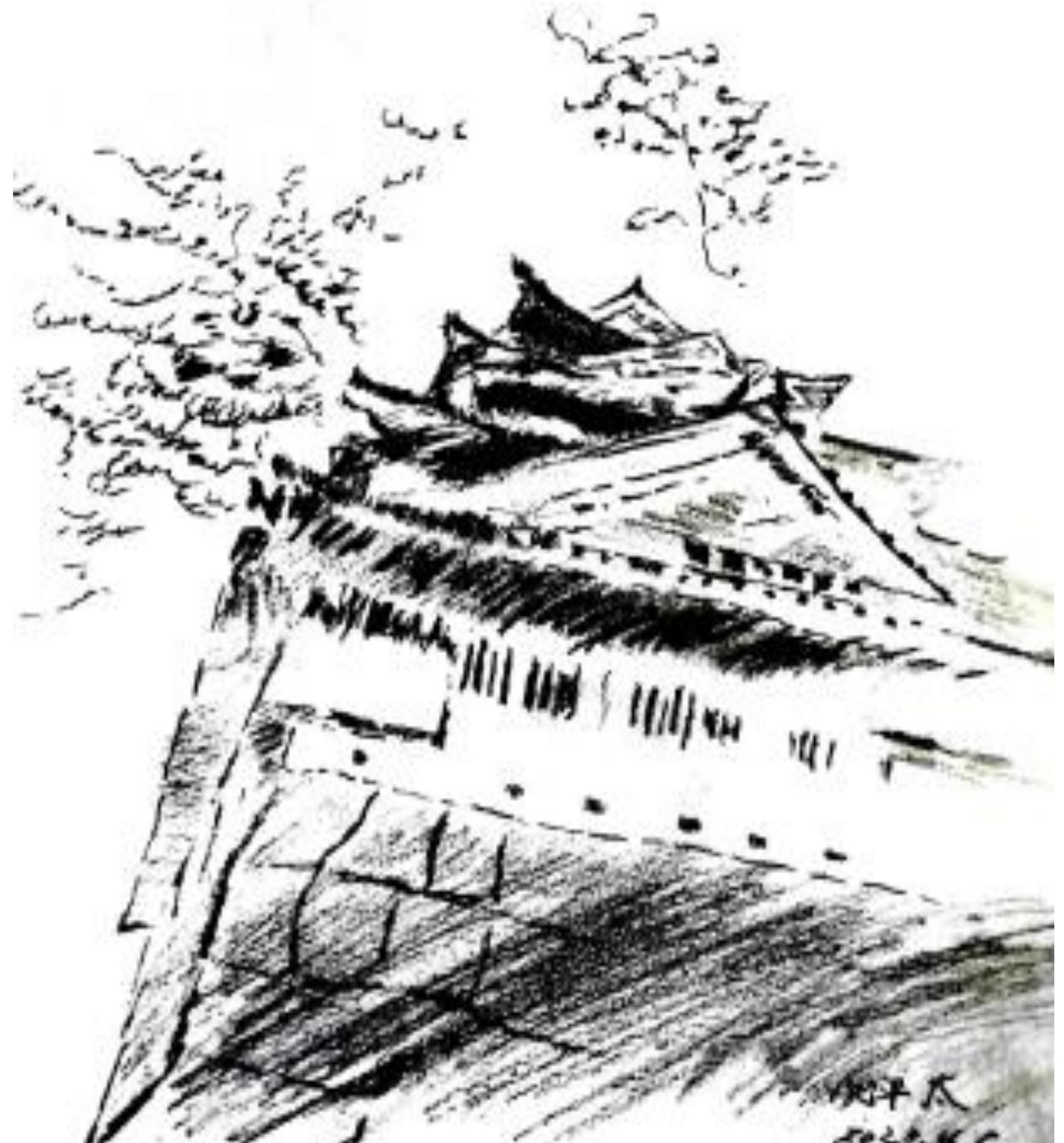


閣守天柳川

2024年5月号



第13回例会 2024年4月15日(月) 投句締切分

お題 「根回し」

加山勝久 選

雑魚なので根回しの件かやの外
根回しが下手で足許掬われる
根回し上手組織の要抑えてる
ばつちりの筈だったのに裏切られ
慎重に外堀うめて掴む運
根回しを回し過ぎたか空回り
根回しの上手な叔母は九十歳
リニアカー根回し下手なJR
裏方に根回し上手い人抱え
人脈の有らん限りに種をまく
あれよあれよとお膳立てされ魔の手口
根回しの上手い議員が仕切る党
何もかも知った顔して根回しし
盆暮れに心ばかりの鼻薬
寝返りへ根回しをする力ネと地位
根回しが苦手万年平社員
根回しが足らず会議に波浪でる
根回しの歩兵となつて渦の中
根回しの為の根回し再度する
それとなく思わせ振りの会話する

三枝なな
山野寿之
蔵内歳重
松島きよみ
秋田あかり
岡野とら丸
信子
信子
三枝なな
秋田あかり
波部珀兎
井澤壽峰
浜脇蓬生
小林満寿夫
岡野とら丸
林ともこ
武智三成
由夏
久世高鷲
佐野正邦
青鬼堂一字

(五客)

佳5 黄泉の国根回し上手鬼馴染み

(三才)

佳4 告白の根回しですかチョコレート 真鍋心平太
佳3 楯を売り矛も巧みに売っている 下谷憲子
佳2 根回しが効いてシャンシャン手打ち式 久世高鷲
佳1 根回し完了安堵の縄のれん 由夏

(選評)

人の句

営業マンだった頃、攻めねばならない相手に、どう行動するか悩んだ
ことがあります。脅かしてみたり、弱点をついてみたり、プライドを
くすぐってみたり、酒、贈り物、ゴルフに誘ってみたりしてうまく
いけば万々歳ですが、一人になって飲む酒は不味いものです。

地の句

表面上は稼ぎ頭の父親が絶対的な影響力を持っていると考えら
れますが、なぜかお母さんに弱点を握られているのか、弱いですな。
子供の立場で言うとお父さんには理論的に説得は難しいのに、
お母さんを通しての情緒的な説得が功を奏します。

天の句

掛け声をかけ乍らの運動会での百足競争は途中で足並みが乱れて崩れ
てしまいますのに、百足はあんなに多くの足を良くコントロールして走る
ものですね。どんな根回しが事前にされているのか知りたいと同時に、
作句者が百足に思いを寄せての句に感心します。

お題 「根負け」

久世高鷲 選

にらめっこいつも私が目を逸らす

二度三度言うて直らぬ浮気性

角突き合わす丑年生まれ強い母

オタクにはアクセス数で根負けし

根負けの金魚がそっぽ向きました

優勝候補らしいレシーブの粘り

会合で根回し上手すぐ終了

一途さに根負けするアプローチ

口説かれて根負けしたと嬉しがり

蛮行に及ぶ説得務めるも

根負けし自分で掘った落とし穴

根負けし苦くて不味い葉飲む

メール攻め映画ぐらいとお付き合い

通い詰め根負けしたと値引きさす

ラブレター毎日届き結ばれる

禁煙を根負けをした妻小言

草刈り根抜き雑草の落ちる種

汗腺も落ち着かぬまま寒暖差

夜ごと催促されてとうとうフルムーン

根負けし宇宙一周諦める

(五客)

佳5 根負けしたラブレター山セピア色

佳4 負けました101回のプロポーズ

春田敏晴

井澤壽峰

蔵内歳重

三枝なな

信子

信子

ルイ

東尾由子

浜脇蓬生

小林満寿夫

直子

浜脇蓬生

加山勝久

三枝なな

平川柳

堀内きみ子

蔵内歳重

下谷憲子

林ともこ

直子

美代

井澤壽峰

(三才)

佳3 神様になるまで進化続けます

佳2 追い詰めた女の武器は鼻濁音

佳1 爺々が折れてくるよと待つ親子

真鍋心平太

由夏

佐野正邦

人 反対を押し切る二人愛一途

地 執念に根負けをした妥協案

天 数かぞえ羊が先に寝てしまう

軸 オバチャンに負けた負けろの粘り腰

山野寿之

岡野とら丸

真鍋心平太

久世高鷲

(選評)

人の句

親や家族の反対を押し切る二人、なんと太い絆で、結ばれていること

でしょう。互いの揺るぎない愛が、打ち勝ちました。晴れて結ばれた

あかつきには、悔いのなき様、愛を育んで行くことを、証明して下さい。

二世誕生が、解決する事請け合いです。

地の句

労使交渉も互いに譲らず、がぶり四つのまま長期戦に突入、

時間経過の内、決裂寸前に経営者側からの妥協案に

組合側が、協議の結果、受け入れ成立する事になり、

解決するに至った。 すんなり行かぬのが、交渉ですね。

天の句

目を閉じて一匹二匹、、、と数えていくも羊がチラチラして

100匹まで行き、繰り返しても冴えた目は中々寝付けず、

イライラしている内に羊が眠くなったのか、消えてしまった。

子供時代の思い出が懐かしい。

大人はそんな時、どの様に対応しているのやら・・・？

お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

風読んで読んで無駄を選ぶ僕
センセイに無くて七癖七光り
機能性毒を隠して売り払い
観光地日本人達どこ行つた
ねこ派だがサモエドスマイルにきゅんです
天国でやってみなはれさじ加減
次は八重の咲くのを待っている緑地
生存の声を限りに呼ぶ瓦礫
我凡夫迷うほかない生きる道
晩成に波紋広げた蛭狩り
路上にて眠る人にも春が来る
まだ料理出来る身体にする感謝
恋破れ白い男の無言劇
春の夕帰る道まで暖かい
パーソナリティーだからなんだと締めくくり
抜け殻のわたしに刺さるリスペクト
喪の知らせ今年の桜薄墨に
冒険が私を強く強くする
手漕ぎでも行ってみせます大銀河
妻残し風と共に去る男

山野寿之
岡野とら丸
岩原一角
勘兵衛
波部珀兔
青鬼堂一字
信子
久世高鷲
蔵内歳重
小林満寿夫
浜脇蓬生
堀内きみ子
平川柳
ルイ
三枝なな
秋田あかり
浜脇蓬生
由夏
直子
平川柳

井澤壽峰
秋田あかり

(五客)

佳5 干支ノつ巡り傘寿の年男

佳4 しあわせって悲しい春の陽が暮れる

(三才)

佳3 検査結果とうに覚悟はできている 下谷憲子
佳2 生きる道人生の杖ノ本いる 東尾由子
佳1 生き延びた証満足白い骨 久世高鷲

人 定年後厚化粧して再稼働 加山勝久
地 何もかも負けて嬉しい母の膝 林ともこ
天 駆け抜けた時は短く老い長く 美代
軸 書くことは生きていること絵も文字も 真鍋心平太

(雑詠選評)

人の句

若いころは衣装にしるお化粧にしるシンプルでも
若さでカバー出来たが定年後はそうはいかず厚化粧になる。
それでも再稼働出来るのなら良しとしよう。

地の句

前半の「何もかも負けて」で落ち込んだ気分になるが
続く「嬉しい母の膝」でほのぼのとした気分で読み終え
ることが出来る。挫折したときに思い出し読み直して
みたい句である。

天の句

この歳になると本当にこの句のように過去を思いだす。
あれこれとあつたけれど終わってみればみんな夢のようで、
しみじみと思い出される一期一会や過ぎ去った春夏秋冬を
もう少し楽しんでみたいと思う

お題 「化粧」

互選

1点 アーティストにメイクアップも名を連ね

寝化粧を施す手鏡の色香

化粧落としてそつとおやすみ

孫たちがリップいたずら折れました

機嫌と比例している化粧ののり

化粧水の魔法信じて買わされる

マスクして出かける前の目の化粧

2点 メンズコスメ シルバー向けに力入れ

死に化粧念入りにする納棺師

電車内素顔から美女へシヨータイム

私より高級コスメ次男坊

化粧して年齢隠す技がある

暗闇でルージユを引けばオバQに

里の山辛夷で化粧目に残る

化粧井戸源氏の君に花持たす

塗り直し書き直しして厚化粧

3点 厚化粧笑い小皺が浮き上がる

恋をして男勝りも紅をひき

紅さして夫の帰り待った過去

4点 薄化粧母のそわそわデイのバス

青い目に写る桜もピンク色

お化粧が終わる頃には終点に

三枝なな

小林満寿夫

春田敏晴

青空

信子

久世高鷲

平川柳

三枝なな

平川柳

浜脇蓬生

松島きよみ

東尾由子

青鬼堂一宇

武智三成

小林満寿夫

松島きよみ

堀内きみ子

波部珀兎

由夏

山野寿之

美代

加山勝久

女より男が化粧上手くなり

ルージユ代稼ぐマスクが外せない

紅引いた娘に別れ告げられる

心にもお化粧をする作法の儀

5点 薄化粧ポツと色香の匂う女(ひと)

マスク取り化粧落とすとどちらさん

横綱の化粧回しに覇気がある

アイメイク隠し続けた嫉妬心

6点 うつぶんを晴らす濃いめのアイシャドウ

化粧塩鯛はますます上機嫌

五十年逃げた男の薄化粧

蕾から春の化粧をする桜

8点 百歳の100を彩る薄化粧

9点 本心を言わないように紅を引く

12点 とりあえず化粧わたしを生きるため

13点 金平糖星になるまでお化粧し

14点 厚化粧何か言いたいことがある

佐野正邦

井澤壽峰

真鍋心平太

岡野とら丸

由夏

佐野正邦

岡野とら丸

直子

林ともこ

下谷憲子

春田敏晴

山野寿之

秋田あかり

直子

秋田あかり

真鍋心平太

林ともこ

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

川柳人口を増やしたい

エッセイ 山野寿之

四年間のコロナ禍の間に大きな川柳吟社が消えて、高齢化と新規参入がなく、川柳の先細りになるのではと危惧しています。わたしは五年前に川柳とんだばやし富柳会の会長を引き継ぎ同時に川柳講座二カ所も引き継ぎました。またご近所の方と川柳講座もするようにになりました。幸いにも？コロナ禍では誌上大会が増えて誌上大会を選び講座の方と勉強しながら全員で投句するようにしました。投句は私が皆さんの句と参加費を集め一緒に投句します。細かい話ですが皆さんの通信費が助かります。

おりひめ・ひこぼし句会の誌上大会、鉄道川柳誌上大会、没句誌上大会などです。大会誌が送られて来ますと、誰が何句入ったとか、誰が佳句に入っていたとか作句の楽しみが倍加するようになりました。

ご近所の講座の方に、無料で**インターネットを利用して投句出来る「ウエブ川柳天守閣」を紹介しました。**スマホを持っていても電話やラインだけでは勿体ないと言き、趣味の川柳が上達するばかりでなく、いろんな人が集まり無料で句会に参加して自分の実力を知りたい句会ですと、説いて何人かの人に参加して貰いました。

もう一つ皆さんにアピールしたのは、真鍋心平太さんのパステル画が好きで、綺麗な絵画が楽しいですと進めました。

川柳の句会に若い人が入ってこない、高齢化で来れなくなつて句会から人が減っていくと、嘆いていても人は増えません。高齢者でも向上心や好奇心のある人は沢山おられます。

先日も講座に入つて来られた方は八十五歳でした。若者が高齢者と一緒に活動する方が無理だと感じます。年寄りには減りません、ますます増え続けます。

川柳の普及に微力ながら今後も講座を続け川柳人口を増やす努力と、自分も勉強せねばと痛感する次第です。

(寿之)

今月の投句者(30名 敬称略)

井澤壽峰	加山勝久	久世高鷲	勘兵衛	東尾由子
山野寿之	岩原一角	信子	春田敏晴	松島きよみ
武智三成	平川柳	ルイ	波部珀兔	三枝なな
小林満寿夫	真鍋心平太	青空	林とも子	秋田あかり
青鬼堂一宇	浜脇蓬生	直子	由夏	蔵内俊重
岡野とら丸	堀内きみ子	下谷憲子	佐野正邦	美代

太字の方は初参加です。

今月投句者は30名、**当初目標を達成出来ました!**

皆様ご参加、ご協力ありがとうございました。

山野寿之様、ご協力に心より御礼申し上げます。

お題 「夜明け」 短句

武智三成 選

夜明けの海に頭を垂れる

夜勤が明けた大きく伸びを

嵌まる韓ドラふと夜明け前

カラスの声で知ったゴミの日

眠らぬ街に白々夜明け

夜明け前からゴルフお迎え

ひたすらに待つ病室の闇

留年2年夜明けが近い

我も千鳥も素足の夜明け

オーロラ抱いて淀屋橋まで

春の夜明けにマリア懐妊

自由の夜明けジエンダーフリー

山月記読む暁の虎

雨音せかす闇から夜明け

(五客)

佳5 竹馬の友と夜明けまで酌

佳4 ゾンビといくさ夜明け前まで

三枝なな

松島きよみ

林ともこ

下谷憲子

由夏

久世高鷲

松島きよみ

堀内きみ子

春田敏晴

真鍋心平太

平川柳

山野寿之

平川柳

由夏

岡野とら丸

春田敏晴

佳3 春の夜明けはベースアップだ

信子

佳2 夜明けだろうか癒える傷口

直子

佳1 夜明け待たずに聞く呱呱の声

久世高鷲

(三才)

人 ひたすら夜明け願う病棟

下谷憲子

地 紛争の地に夜明けいつ来る

浜脇蓬生

天 夜明けと共に動く母の手

東尾由子

軸 そろそろ欲しい世界の和平

武智三成

(選評)

人の句

私も最近入院した。病院というところは

電灯はついていてもベッドには闇がある。

ひたすらその闇が明けて退院出来る日を待っている。

地の句

ロシアとウクライナの戦争はもう3年、

イスラエルとパレスチナも今に始まった

ことではなく長く戦争している。そろそろ夜があけてもよい。

天の句

子供のころの兄弟が多く、母は朝早くから

忙しかった。弁当を作ったり、朝餉を用意したり、

何十年たつても思い浮かべる伊予の松山の母を

見事に表現している句である。

「あの頃の家族弟だけになり」

真鍋心平太

タイトルはNHK学園の交流誌に掲載して頂いた句である。

子供の頃、祖父と両親と弟の五人家族だったが今はもう二人だけになってしまった。でもここ数年のうちに共に喜寿を迎えられるのだから文句は言えない。子供の頃が一番幸せだったように思える不久前もどこかで書いたが、それは心身ともに健康でお金の心配をしなくても良かったからである。

現在はというと、毎日身体のことを心配し、年金の上げ下げに一喜一憂する体たらくである。災害も昔より頻繁に起こっているような気がする。

戦後100年近くに跨って築き上げた土台が崩れると毎日のように騒がしい。それでいながらそれほど深刻な様子でもないのは、人々がおろかでも特別に感性が麻痺しているわけでもなく、互いに頼り切ってしか一刻を安堵して生きられない人間の自分たちがつくりあげた諸般のシステムに頼りすぎて、それが習慣化し

ているからである。

そのようにはかない人間は、自分たちの作った抛り所に任せきって小動物ほども自然に対処する知恵も本能も持ち合わせていない。人類の滅亡まで、明日降りかかってくる災害を予知することもなく失うものあまりに多すぎるために災害を十倍、百倍にするばかりである。

子供のころ家の裏に3坪ほどの小さな庭があったのだが、自分たち兄弟が大きくなるにつれて手狭になり裏庭をつぶしその上に2階を増築した。裏庭だったところは狭いながら子供たちの勉強部屋になった。

巻末の絵はその勉強部屋で弟とドイツの戦艦テルピッツの模型を作っているところ。戦艦の横に映っているのはプラモデルの飛燕だ。写真を撮ったのは36才で亡くなった父である。この写真が自慢で大判に引き伸ばしたものを弟が保管して居り、それを借りて父が見た二人を描いた。

川柳天守閣 連載 評論 「現代川柳の詩学」を考える ④

山路閑古の『古川柳』（岩波新書）の「内在律」について

十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平 川柳（東京川柳会主宰）

川柳における「内在律」については古川柳研究家の山路閑古（一九〇〇・一九七七）著『古川柳』（岩波新書）において初めて紹介されました。ここでは文語定型の短詩である俳句の「五七五」の三段切れの「外在律」（定型律）は「耳に響き、心に感じられる音楽的リズム」ですが、口語定型の短詩である川柳の「内在律」は「判断に訴え、知性を振動させる、声なき声のリズム」であり、「古川柳が詩として」俳句と「対抗し得るのは、こうした内在律の面においてである」と述べられています。

以下、具体的に「雪」を題材にした「外在律」の俳句と「内在律」の川柳を比較しながら説明してみましよう。

降る雪や明治は遠くになりけり 「近代俳句」

ふる雪の白きを見せぬ日本橋 「古川柳」

「降る雪や」の近代俳句は伝統俳句の〈自然諷詠〉で

はなく、人間の生活や人間性に根差した俳句を模索した「人間探究派」と呼ばれる中村草田男（一九〇一・一九八三）の代表作です。句集『長子』に所収。これは一九三一（昭和三）年一月、東大俳句会に出句された俳句

で俳人・高浜虚子（一八七四・一九五九）によって採用され、同年『ホトトギス』に掲載されました。草田男、三十一歳の作。この俳句では「降る雪や」と上五で切れ字の「や」を用い、しんしんと「雪」が降る状態を描き、「や」という切れ字に万感の「想い」を込めています。

「雪」は冬の季語。中七下五では「明治は遠くになりけり」と古語を用い、「明治」という過ぎ去った時代の「精神」を草田男は懐かしみ、昭和の時代にはその明治の「精神」が忘れられていると強く感じています。

この草田男の俳句は切れ字や季語を用いた「二句一章」で造型され、「五七五」の三段切れの「耳に響き、心に感じられる音楽的リズム」を有した「外在律」（定型律）で書かれています。そこには近代的な「人間探究派」としての俳人・中村草田男の視点が強く表白されています。

次に「降る雪」の柄井川柳点の一七五七（宝暦七）年

の「万句合」(まんくあわせ)の中にある「古川柳」をみてみましょう。この「古川柳」は柄井川柳点のもっとも古い句として知られています。「前句」は「にぎやかな事、にぎやかな事」です。

俳句では「雪」は季語として冬の寒さを連想させる語として用いられていますが、この川柳の「雪」は、こうした冬の寒さを連想させる季語ではなく、「日本橋」の「にぎわい」を示した語なのです。川柳では、俳句の切れ字や季語を用いません。特に俳句と川柳は切れ字の有無によって明確に区別されます。この「降る雪」の川柳は切字がなく、「二句一章」の「判断に訴え、知性を振動させる、声なき声のリズム」を有した短詩文芸なのです。この山路閑古の「古川柳」における「内在律」の用語は「インナー・リズム」(inner rhythm)の訳語です。これは詩人の福士幸次郎(一八八九・一九四六)によって一九一九(大正八)年に用いられた語です。この「内在律」では意味の切れ目が句の切れ目となる「新定型律」を志向し、「非定型」を標榜する「自由律」とは峻別されるべき韻律なのです。「五七五」の「外在律」が形の決ま

った器の定型律だとすれば、「内在律」は風呂敷のように包む内容に応じて形が変化する「新定型律」なのです。

江戸時代、話し言葉の会話体を一句の中に入れて表現する「内在律」は「五七五」の三段切れの「外在律」と呼ばれる「定型律」と異なり、風呂敷のように「十七音」の総音数の詩形の中で自由な音数の配列に区切られた韻律で造型されています。特に『誹風 柳多留』(四篇)以降からこの会話体の「内在律」の句が増えてきます。例えば、四篇には、次のような会話体の「内在律」の句が収録されています。

遣ひたてましたと下女へいとまごい

この「前句」は「別れこそすれ、別れこそすれ」です。これは「嫁入りする主家の娘が下女に言っている」「別れの言葉でしょうか。「長い間お前を使い立てましたが、いやな顔もせず、よくやってくれました。有難うよ」と主家の娘の「下女」への感謝の気持ちがよく出た一句ですね。またこの句は「遣ひたてましたと」(九音)が「問い」になっており、「下女へいとまごい」(八音)が「答え」の「一章に問答」のある川柳作品です。(続く)

第14回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

5月よりサイトのURLが変わりますのでご注意ください！

お題 「駅」 山野 寿之 選
「介護」 ルイ 選
「弁」 互 選
「雑詠」 真鍋心平太 選
「嬉しい」(短句) 互 選
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。**変更になりました。**
<https://tensyukaku.com/>

投句、互選投票は会員登録が必要です。
会員登録は下記 URL より **こちらに変更になりました。**
https://tensyukaku.com/id_make.php

投句開始 2024年5月9日(木) から
投句締切 2024年5月15日(水) まで
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。
5月16日(木)～5月19日(日)
披講発表 5月20日(月)から随時閲覧可能になります。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



鉛筆画
あの頃の家族弟だけになり
(クリックすると大きくなります。)

二〇二四年四月二十五日発行
ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)
(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

TEL・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446